

令和2（2020）年度大学院教育学院修士課程入学試験問題

外国語（日本語）

（100点満点）

次ページからの問題1と問題2を答えなさい。

問題 1

北海道に暮らしている高校 2 年生の山田さんは、新聞を読んでいて、2018 年 10 月 1 日時点の総人口が 1 億 2644 万 3000 人になり、前年比 26 万 3000 人 (0.21%) の減少となったこと、人口減は 8 年連続であることを知り驚きました。そこで、いろいろな資料を使って、高校生的人数を調べてみることにしました。表 1 と図 1 は山田さんが作成したものです。山田さんは、高校進学率が 1984 年の 94.1% から、2018 年には 98.8% へと増えていること、北海道には生徒数 200 人以下の全日制 (平日の昼間に授業を行う) 高校が 71 校あり、その合計生徒数が 6897 人になることも知りました。山田さんは、調べた結果から多くのことが言えると思いました。

山田さんが言えると思った多くのこととは、どのようなことでしょうか。あなたの考えを日本語で書きなさい。

表 1 都道府県別の高校生数、高校数、都道府県の面積

	高校生数	高校数	面積 (km ²)
北海道	125,168	280	83,424
東京都	314,385	429	2,194
大阪府	226,957	260	1,905
青森県	34,902	77	9,646
岩手県	33,689	80	15,275
山形県	30,160	61	9,323
秋田県	23,947	54	11,638

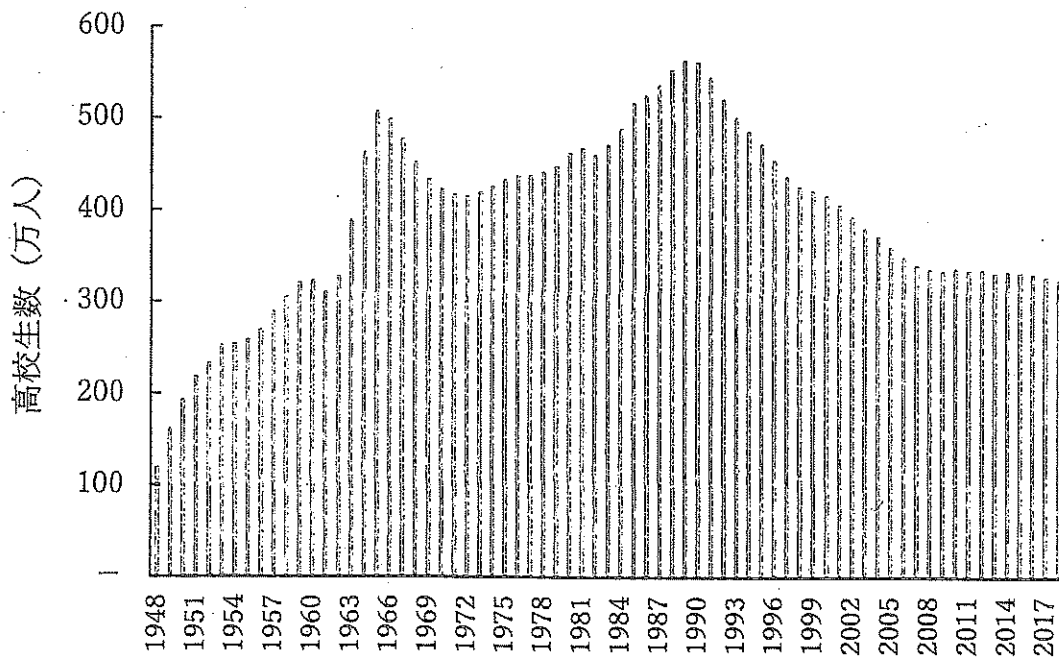


図 1 1948 年からの高校生数の推移

問題2 次のページからの問題文を読んで、以下の問1～3のすべてに答えなさい。

問1 傍線部①「公立小学校でこんな実践ができるんだ」について、尾木はどのような例を挙げていますか。簡潔に述べなさい。

問2 傍線部②「違和感」について、それはどのような違和感ですか。簡潔に述べなさい。

問3 傍線部③「教育現場では、学びの主体である子どもが主語になっていない」について、問題文中にある例に基づき簡潔に述べなさい。

問題文の出典

尾木直樹・木村泰子『「みんなの学校」から「みんなの社会」へ』岩波書店（岩波ブックレット）、二〇一九年

（補注）

尾木直樹……中学・高校の国語教員として長く務めたのち、大学教員として教育・子育てに関する調査研究、評論活動を続けた。問題文中にある「尾木ママ」は尾木の愛称である。

木村泰子……大阪市立大空小学校の校長を九年間にわたり務め、同校の取り組みを描いたドキュメンタリー映画『みんなの学校』は話題を呼んだ。